

12 誤飲・誤食をした時



●子どもの事故で多い、誤飲・誤食による中毒は、ハイハイや、つたい歩きができるようになり行動範囲がグンと広がると、チョットした油断で起きてしまいます。ものによっては、少量でも生命に危険がありますので、子どもの周りに危険なものを置かないようにしましょう。

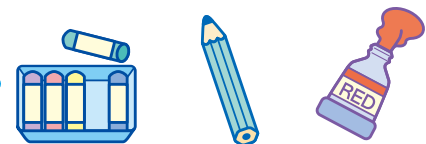


●まず、何を飲んだかという情報が大切です。受診の際に、飲んだ物と同じ物、または、医薬品、洗剤、消臭剤、殺虫剤などの場合は、その成分がわかるような説明書や箱、ビンなどを必ず持参して下さい。



通常の時間内に受診しましょう

- タバコを少しだけかじった
- プラスチック、紙、ビニール、クレヨン、鉛筆の芯をかじった、インク、絵の具をなめた



早めに救急外来を受診した方がいい時

- 飲み込んだとたんにせきがはじまった（気管や気管支に異物が入った可能性があります。）
- 医薬品、洗剤、殺虫剤などを飲んだ
- けいれんを起こしている
- 意識がない
- 顔色が悪い
- 呼吸の状態がおかしい
- 嘔吐が止まらない
- ボタン電池を飲み込んだ、鼻に入れた
- 硬貨を飲み込んでしまった



ADVICE

◆家庭で対処すること

- 異物が口の中に見えるときは、人差し指をほおの内側に沿って差し入れ、詰まっているものをかきだす。あわててのどの奥に押し込まないよう注意しましょう。
- 異物を飲み込んだ場合は、次ページの表を参考に速やかに応急処置をして下さい。
- 応急処置がわからない時は、(財)日本中毒情報センター（中毒110番）に問い合わせして下さい。

◆注意すること

- 自宅で応急処置ができない時や、応急処置の方法がわからない時には、病院に電話連絡を入れてから、できるだけ速やかに受診しましょう。（医薬品を含む化学物質では、口に入れてから時間が経つほど処置の効果が出にくくなります。）



ここが知りたいQ&A

Q. 医療機関にかかるまでの応急処置にはどのようなものがありますか？

A. 「異物を飲み込んだときに医療機関を受診するまでに家庭で行う応急処置」（35～36ページ）を参考にして下さい。

Q. 誤飲や誤食はどのくらいの年齢に多いのですか？

A. ハイハイが始まる7～8か月頃から2歳頃までです。小さいお子さんのいるご家庭では、医薬品や洗剤、殺虫剤などの化学物質はお子さんの手が届かない所に置いて下さい。テーブルクロスの上に置くと、お子さんがテーブルクロスを引っ張って、上に置いた物を落とすことがあります。テーブルクロスの上は安全な置き場所ではありません。

Q. タバコを食べたらどうしたらいいのでしょうか？

A. 2cm以上食べなければ心配ありません。実際にはタバコは味が悪く、たくさん食べることはほとんどありません。しかも、タバコの成分のニコチンの吸収はゆっくりで、しかも吸収されると嘔吐を起してしまうので、重い中毒症状を起こすことはほとんどありません。

しかし、水に溶けたニコチンは吸収されやすく、ニコチン中毒を起こすことがあります。タバコの吸い殻が入ったジュースやコーラなどお子さんの手が届く範囲に置かないで下さい。